



東大寺藥師院文書

正倉院御開封之日記寫

卅四

共卅參

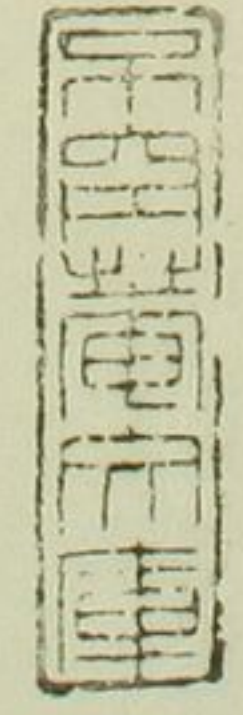
特別
八
3117
37



門 八 生
號 3117
卷 37

第 三 拾 四 號

正倉院御開封之日記寫



早稲田大學圖書館
第 25.4.19
購 券

三藏開條

永享元年己酉九月廿二日室町殿法下向仍
廿四日被開三倉之支社法社奉看昨日廿三日
今日在支寺之御所禮法寶物於寺務坊
西室殿御所

勅使執人右少弁明豊朝長 座高麗一帖

奉行三穗六人 藏人於維那官人登
大夫左近將慶實

座紫一帖高麗一帖

藥物之出入日記在列紙

一 庄役了備掃除如例

一 藥園清潔雜役了嗣トテ每夜加下知或也

仍藥園 コメ三斗米三斗
ワラニ斗米又力十俵

雜役 コメ二斗米二斗
ワラ六斗又力十俵 清潔 コメ三斗五斗米三斗
ワラ十又又力八

如此改上知雜沽之各庄名を改め知法之に然但
雜役又力ワラハカリ少く改め知法之に

勅對倉庫

大稅 造桶 金小鉢十一 襖一枚 銀鉢五

沛劍 沛弓 圍碁盤 右翼 ルリ

琵琶 琴 麻角 笛

尺八 笙 沭笛 沭念珠 カサ

沭 カサ

清鏡二沈

玉冠

圍碁石盤

法有衣 本ノマ 竿篋

法篋

角帶一節

圍碁石 一筒

圍碁石六筒

書 一卷

鴨毛扇風

玉冠 朱漆椽

黒漆杖 黒漆瓦

玉帶

呂筆 湯用膳

薰陸香

琵琶 一面

肖櫓 一杖

東

赤門輕院

カサ子(リ)	カサ子(リ)	カサ子(リ)
物後	二細衣	三細衣

一正倉院清寶物志志瓦

公方様工惣法目年行以

小細當貯若字瓦くらノ

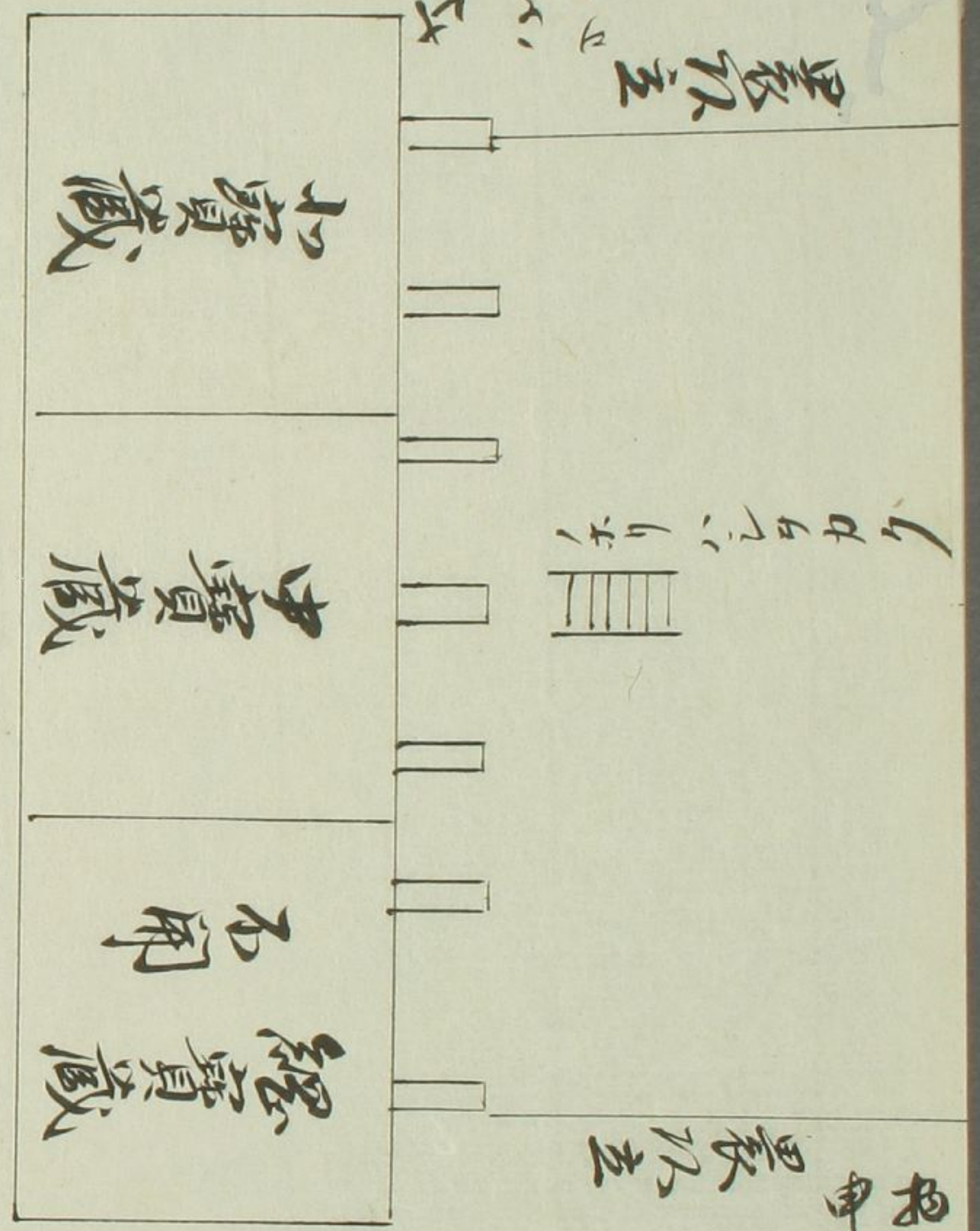
法射水ノカヲ戸ヲ身

納テ付之ニ細取役

法射付之

一旦ホクノ帝ノ法別

副中舎...
 54445 (M) 中舎...
 板...
 中舎



特別勅使、
 申上

西

一正倉院、蔵用時カリヤ、勅使先法如比之後
 三總所二人如比

一蔵用時上司
 冷人カチカフリニテ
 名お東 袖アカ
 先弊白のマイラスル

その後六堂より二人如比ス
 赤衣 六堂一膳役ニテ
 クラノ鑑ヲ 年々七チテ東向テ
 八幡大菩薩ノ方へ對シテ

寶物御所ニシテトクカノトニ夜ヨバワリテその後
 鑑アリスニ總所友人内エテ
 任日記ニ記スルニ取カ
 世心六堂ノ公人九リ
 百也ニテ
 余ニ名一切石時トシ
 三總友人斗也六堂ナラ

テハ内ニ定事ニ成ル也 寺僧前ナドワ一向田ノ入事
列列ス也

一長横三合ニアラコモラシキソノ上ニ寶物ヲ垂也 晨以

寺僧前 寺務之坊ノ道之公人赤衣カチカフ 梅リニテ

枝ニテ 三サキヲマイラスルモノカ人凡トモ少ク相

制是之ニ執ルニ以テ之ニ急ニ自日記ヲ紙ヲ

一今度法寺務 西室殿公惠僧正

一正倉院法用時任先例ニ被入有淨之也

送物ヲ寶藏ノ入事 辞退中ニ之遷交田ノ

降物任先例ニ違テ兼テ入事

一精進ノ入夏一七日其内三日列火別記 新衣忌 桶抄荒藁ニテ 早

一三總所奉當訪命ノ上ニ也 凡少分其送物別記 由來畢

一精進新造物列法行在ニ早拾石分渡也

正寶院 寛永以橋

一室町殿法成其時 某妙院 快實寺主

年記外師大東隆安

日記上毛別紙之在之

寛正六年酉九月廿四日 三徳取性実

一 三徳信長湯下向お多門山法成之蘭者待
法切之成下寺門に 東内子中送山時之年取
上生院降実之師多門山に 子之と之親等
多門山に持余中早一

天正二年甲申三月廿八日

勅使、日野原 輝賢

在代、ノ筆、如出有之也

東大寺寶藏御開封付条

法藏院明

一 五師流在知付法利物在事

人扱、每少、
二存時也

一 三徳取精進入事一七ヶ日之内三日別火并

新衣同好衣米桶枚篋席本日之

一 三徳取幸号分、子、乃、少、千、走、送

下院并持進新、子、法下、行、在、之
拾石、其、後、也

一人方如仕人教、多少路時請を新
新衣之代法下に行き、
一室町後法如之日記字之

慶長七壬午六月日

法通院
鏡音院

年師三海

大法師訓盛

深尾甚之助

竹村九郎重房

法通院中

右、藥師院在東京上座實祐筆法明院アリ

三徳軍對次才

勅使カリヤ、法如仕之、後三徳友人如仕、
少徳如仕、三徳軍時三徳寺僧流一觸
二觸友人法就橋上、戸、友觸如仕、
先辭白、イラス、凡是、恰人上司、後
六者至、一觸役、法就、
手、指實院、法戸、
夕カ、
之、

ヨハワリを後三總執事ヲ切少總ヲヨヒ
法親ヲ後少總系扇子ノセ執使シカリ
ヤ、持テ系法目ガケ。執使法親法請
取シる執事之由法也。ヨハワリ後三總證
法取シる法也。再々證シテ其也。持セ
先三總由入シテ其後ハ其也。百壽法
道是リ一ハ目録シレ工中取カサセハ
法道ハ其也。何ハ堂一扇梅枝ニテ。云々。
中ヲイラスルハ其物也。何ハ寺僧
其也。人奉行シ人其供テテ證リ法
与物ヨリ執使カリヤ。前ハ其人其後
テテ持テ其也。テテ法取シる證ハ其也。
モクノス

以上

右、藥師院大進上之座は橋英祐筆以明鏡アリ
今又写記正法院少進實宣於維新為後代

重なる記号

義應四

未 二月廿九日

實宣五

